

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102156		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	くまもとケアセンターそよ風 グループホーム (下通り)		
所在地	熊本市東区山ノ内3-9-27		
自己評価作成日	平成26年2月22日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議や地域の行事参加を通して地域とのつながりを大事にし弊社グループホームが地域の一員となれるよう心がけている。また現在入居されている入居者の高齢化に伴い、訪問看護や協力医、ご家族と連携し入居者にとって最適なサービス提供が行えるよう、ユニットごとの連絡ノートや、会議から職員同士が情報の共有を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設しての時の流れが入居者の高齢化、重度化という局面を迎えているホームであり、職員が一丸となって一人ひとりに寄り添いながら真摯にケアにまい進している。委員会(身体拘束廃止委員会、事故委員化、衛生委員会等)による意識統一を図り、センサーマットでもグレーゾーンと位置づけ心身の状況を見極め転倒防止に努めている。“終の住処”として家族の希望に研修を重ねた職員と協力医療機関や訪問看護、家族等とがチームとして終末期ケアに取り組んでいること敬意を表したい。また、一方で少しでも楽しい生活を支援したいと“今”の現状を見つめながら支援していることは、誕生日の入居者と職員との外出(買い物や外食等)に表れている。運営推進会議が相乗効果として生かされ、地域との交流促進に努めており、今後も馴染みの職員によるケアが継続されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を職員が把握、実践できるよう見やすい位置に掲示し共有化している。	法人理念や介護サービスの介護方針のもと、グループホーム独自に“1. そよ風そぞぐ 2. 私のふるさと ころのふるさと 3. なごみの家”を理念として、掲示による意識付けや職員各自が一步立ち止まって考えるケア指針としている。また、会議の中で穏やかな生活と家族が安心できる環境について話し合いを持つ等、理念に即したケアであるか検討しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の1月は地域の「どんどや」に参加させていただき、地域の方、民生委員の方々と交流を図った。入居者の体調に配慮し今後も地域の活動に参加していきたい。	自治会からの案内により「どんどや」や、施設全体の夏祭り時等地域住民との交流に取り組み、立地条件を生かした商業施設への買い物やごみステーションの掃除当番を担う等地域の一員として活動している。今後、更に地域とのかかわりを増やしていきたいとしている。	入居者の重度化(車椅子利用も多い)という現状に地域に出かける事は困難な状況のようである。ホーム単独の行事を企画したり、ボランティアの活用等、困難な状況を打破するて手立てを全員で検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の話題を取り上げ地域の方々、ご家族様との意見交換を行っている。(25年11月22日開催分)今後も情報発信、話題を提供する場としていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、民生委員やご家族様からの貴重なご意見、ご提案を頂いており、他職員との共有しサービスの向上につなげている。	2ヵ月毎に開催される運営推進会議は事前に資料を作成し、現状報告や事故報告、外部評価結果や職員の異動等詳細に説明し、質疑応答が行われ、代表家族にも意見や要望を聞き取りしている。前回の意見や提案事項は次回の会議の中で進捗状況を説明したり、家族会の中で説明されており、有意義な会議が開催されている。事故等も詳細に説明されており、透明性のある運営体制であることが確認された。	メンバー構成は十分であり、ホーム運営の情報発信源としても生かされている。家族会の代表参加ということであり、参加の無い家族へも議事録を送付することを検討いただき、情報の共有化とされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村への人員配置の相談や消防局への施設整備に関するご相談をさせていただき、的確な指示、ご指導をいただいている。今後も密に連絡を取っていく。	市の介護福祉課に業務体制の相談や消防局への居室の窓についての相談等常日頃から相談できる関係を築いている。また、介護相談員制度を採用し相談員との情報交換や事故報告書提出等に出向いている。また、運営推進会議の中で包括支援センターから情報を得ている。行政への問い合わせ事項は記録として残されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回の身体拘束委員会では拘束廃止マニュアルの読み合わせも行っており、再確認の場となっている。	身体拘束マニュアルを整備し、身体拘束廃止委員会によりセンサーマットもグレーゾーンとして検討し、もし必要であれば日々の記録とカンファレンスを行い、心身の状態により解除の可否を見極めることとしている。入居者によっては時々見当識障害によるものとして「帰りたい」と言われることもあり、入居者の気持ちに寄り添いながら穏やかな生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の全体会議研修項目として盛り込まれており、センター全体の職員が再確認する機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に関わりを持っている司法書士の方が定期的に訪問されており、話し合う機会を持ちサービスにつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は十分な説明はもちろんご家族様の要望や意見を大事にし、職員と情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、ご要望を気軽に発信できるよう、そして、区役所などの相談窓口が設置されていることを伝えさせていただいている。	家族の訪問時に要望等を聞き取りしており等病院受診の依頼が出されている。家族会や運営推進会議が問題提起の場として生かされていることは、運営推進会議での意見を基に家族会の中で説明していることに表れている。また、玄関の意見箱や外部の窓口を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議にてセンター長、管理者と意見交換を行って反映させている。	管理者は日々ケアに入り、職員とのコミュニケーションに取り組み、センター長も参加される毎月の会議の中で意見や提案を話し合い、ケアサービスに反映させている。センター長との個人面談も行われており、今後も職員の定着に向けた取り組みに期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	センター長との面談や職場環境を整える一環として親睦会を行い職員の連携が図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けた案内や、研修案内など、必要に応じて事務所に掲示して参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者との交流する機会になかなか参加できていない。今後はサービスの質の向上のため、職員の充実を図り身近なネットワークを構築していく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前の面談を大事にして本人、ご家族それぞれのご意見を集約し状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることに対してまずは傾聴しセンターとして出来ることを誇張せず伝えるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、弊社グループホームについてご説明させていただき、他のサービスの利用が望ましい場合はご提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまで歩まれた人生を尊重し、また入居者と一緒に楽しんで過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への報告、相談を行い情報を共有しサービスにつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの人や音楽や写真、食べ物などを大切に「生きがい」につながるよう支援をしている。	馴染みの場所への外出は困難な状況にあるが、誕生日に職員と共に自宅へ帰ったり、正月の帰省や外出等家族の協力を得ながら支援している。また、日常の関わりの中で聞き取りし、遠方の家族へ電話をかけることを支援したり、大勢の家族での訪問、友人の訪問、年賀状を家族に送る方や初詣等これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の共通の話題(音楽、食べ物、学生時代についてなど)を見つけて複数の入居者が関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族が面会に来られることがあり、退去後も感謝の気持ちで接して関係性を維持していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の趣味や顔の表情、またか御家族との会話から本人本位のサービスが行えるよう努めている。	入居前のアセスメントでの情報把握の他、家族の訪問時に情報を把握し、発語困難・意思表示がない状況もあり、表情や声のトーン等により判断しながら本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前相談時からの情報を大事にし、現在の入居者の現状を踏まえサービス提供を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残し、その都度リーダーが申し送りをするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの入居者担当、ケアマネ、介護職員も含めて現状必要なプランニングを行っている。	ケアマネージャのプランをもとに、毎月1回担当職員によるモニタリングを行い、状況に応じ追記し、半年毎に新たにアセスメントを行い、プランを作成している。各ユニット毎にカードックスにプランを入れケア統一を図り、プランニングに繋げており、家族の思いや職員の観察力が生かされた具体的且つ詳細な現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、日報に気づきを書いて申し送りを徹底するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望やご本人の体調に合わせてその都度サービスを見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の活用(ボランティア、地域行事など)し入居者が楽しみのある生活となるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう状況に応じて職員が同行しご家族にもご理解いただくようにしている。	入居時に希望のかかりつけ医を確認し、協力医を説明している。協力医の在宅医療診療所とは月2回の往診や体調変化時の相談等で連携が図られ、訪問看護からの週2回の来訪で入居者の体調管理に取り組んでいる。専門医受診を家族と協力し合い支援しており訪問歯科を取り入れる等個々に合わせた適切な医療受診が出来るように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間を問わず、入居者の特変に気づいた際はその都度相談し、病気の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアカンファレンス、お見舞いなど、直接病院関係者と意見交換が出来る機会を設けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のケアについてはDr. 家族の意向を含めて入居者に最適なサービスが行えるように会議を開催している。	重度化時の対応指針のもと入居時に説明し、体調変化時は主治医を交えた話し合いの機会を持ち、本人・家族の希望を確認している。終末期の勉強会を行ない、現在も主治医や訪問看護と連携し臥床中心の入居のホームでの生活を支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、管理者、訪問看護ステーション、ご家族への連絡体制を取れるよう職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最寄の消防署より立会いで避難訓練を行っており今後も協力機関としてご理解いただけるよう依頼する。	年2回の火災避難訓練を昼夜想定で実施し、業者による設備点検や火気・電気・建物周りの自主点検で防火意識に繋げている。自然災害を含めた防災マニュアルを整備し、備蓄の準備や有事の際の法人との協力体制が図られている。	運営推進会議で改善点を含めた訓練の報告がされており、今後は訓練を見てもらう等地域との協力体制作りを検討頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉かけの中で、気にかかった際にはお互いに注意をかけあい、改善していくようにしている。	職員は業務に追われる事がないように入居者目線での対応に取り組み、人生の先輩として言葉遣い等で気になる時はお互いに注意し合える環境作りに努めている。特に入浴や排泄時には羞恥心やプライバシーに配慮し、さり気ない支援を心掛けている。個人情報保護の研修を実施し守秘義務の遵守に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来るようゆとりをもった声かけや、介助を実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に集中していることがあり、その日の勤務者で声をかけあっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から入居者の身だしなみには注意を払っている。(いつ来客が来てもおかしくないように)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューや、特別な美食祭りを通して、目で楽しめるように心がけている。入居者自身が準備や片付けをすることは難しくなってきたが、盛り付けや、テーブル拭きなど出来ることをご協力いただいている。	入居者は注ぎ分けや食器拭き等出来る事にに関わり、個々に応じた形態での食事が提供されている。毎月の美食祭りは視覚でも楽しめるメニューとしたり、ランチバイキング等で目先を変えている。食事介助も多くなる中、誕生日外食を個別に支援し本人の好きなウナギや喫茶店でランチやコーヒー等を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科によるケアのほか、センターでは義歯の洗浄、うがいをして清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より排泄パターンを把握しオムツ使用をできるだけ減らしていくようにしている。	個々のパターンに合わせトイレでの排泄を支援し、夜間時の安眠も考慮し排泄用品の種類や大きさ等を毎月の排泄委員会で検討している。又、退院時は立位状態を確認し支援方法を検討する等自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整や水分強化を個別に実施し、また、訪問看護とも排便状態について報告を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いたうえで入浴を実施している。	体調や希望に合わせて入浴チェックしながら間隔が空かないように支援している。身体状況によってはシャワー浴で室温にも配慮しており、拒否に対しては無理強いをせず時間を置いたり言葉かけを工夫する等し、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて静養対応など検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更になった際は必ず担当職員より連絡し申し送りを徹底するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽鑑賞や買い物(近隣のホームセンター)など個別に気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により植木市や正月の帰省などで外出されることがある。	ホームの立地条件や入居者の身体状況により気軽に散歩に出かけられる環境ではないが、外出行事として初詣や花見等が支援されている。又、地域のどんどやに参加したり、買い物や誕生日の個別の外出を楽しみにされている。家族の協力で植木市見物等に出かけられる方もおられる。	今後も天候や体調に合わせて入居者の希望を取り入れた外出の継続に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常職員が金銭管理を行っているが、会計の際には入居者にお支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりが出来るよう声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の移動を自由に行っている、落ち着かれない方がいた時は行き来して気分転換を図ってもらっている。	2階のホームに続く1階玄関にも季節の飾りや職員写真等が置かれ、各ユニットのリビングの壁面には入居者写真や貼り絵等を掲示し、居室入口の個々のミニボードにも季節感や個性が溢れている。プランターの花々への水やりやユニット間を歩く等入居者の自由な生活が垣間見られ、清掃や温湿度管理で居心地よい共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの配席に注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由になじみのものを持ち込んでもらい生活のしやすい環境づくりを行っている。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みを依頼し、家具やテレビ等が持ち込まれている。作り付けのカウンターに家族写真が飾られたり、家計簿を付けるテーブルが置かれた部屋等その方らしい居室作りに家族や職員と一緒に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアを歩かれる方のため安全な環境づくり(車椅子などの障害物を置かない)に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102156		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	くまもとケアセンターそよ風 グループホーム (上通り)		
所在地	熊本市東区山ノ内3-9-27		
自己評価作成日	平成26年2月22日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議や地域の行事参加を通して地域とのつながりを大事にし弊社グループホームが地域の一員となれるよう心がけている。また現在入居されている入居者の高齢化に伴い、訪問看護や協力医、ご家族と連携し入居者にとって最適なサービス提供が行えるよう、ユニットごとの連絡ノートや、会議から職員同士が情報の共有を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を職員が把握、実践できるよう見やすい位置に掲示し共有化している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の1月は地域の「どんどや」に参加させていただき、地域の方、民生委員の方々と交流を図った。入居者の体調に配慮し今後も地域の活動に参加していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の話題を取り上げ地域の方々、ご家族様との意見交換を行っている。(25年11月22日開催分)今後も情報発信、話題を提供する場としていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、民生委員やご家族様からの貴重なご意見、ご提案を頂いており、他職員との共有しサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村への人員配置の相談や消防局への施設整備に関するご相談をさせていただき、的確な指示、ご指導をいただいている。今後も密に連絡を取っていく。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回の身体拘束委員会では拘束廃止マニュアルの読み合わせも行っており、再確認の場となっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の全体会議研修項目として盛り込まれており、センター全体の職員が再確認する機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に関わりを持っている司法書士の方が定期的に訪問されており、話し合う機会を持ちサービスにつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は十分な説明はもちろんご家族様の要望や意見を大事にし、職員と情報を共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、ご要望を気軽に発信できるよう、そして、区役所などの相談窓口が設置されていることを伝えさせていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議にてセンター長、管理者と意見交換を行って反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長との面談や職場環境を整える一環として親睦会を行い職員の連携が図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けた案内や、研修案内など、必要に応じて事務所に掲示して参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者との交流する機会になかなか参加できていない。今後はサービスの質の向上のため、職員の充実を図り身近なネットワークを構築していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前の面談を大事にして本人、ご家族それぞれのご意見を集約し状況把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることに対してまずは傾聴しセンターとして出来ることを誇張せず伝えるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、弊社グループホームについてご説明させていただき、他のサービスの利用が望ましい場合はご提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまで歩まれた人生を尊重し、また入居者と一緒に楽しんで過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への報告、相談を行い情報を共有しサービスにつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの人や音楽や写真、食べ物などを大切に「生きがい」につながるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の共通の話題(音楽、食べ物、学生時代についてなど)を見つけて複数の入居者が関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族が面会に来られることがあり、退去後も感謝の気持ちで接して関係性を維持していくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の趣味や顔の表情、またか御家族との会話から本人本位のサービスが行えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前相談時からの情報を大事にし、現在の入居者の現状を踏まえサービス提供を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残し、その都度リーダーが申し送りをするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの入居者担当、ケアマネ、介護職員も含めて現状必要なプランニングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、日報に気づきを書いて申し送りを徹底するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望やご本人の体調に合わせてその都度サービスを見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の活用(ボランティア、地域行事など)し入居者が楽しみのある生活となるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう状況に応じて職員が同行しご家族にもご理解いただくようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間を問わず、入居者の特変に気づいた際はその都度相談し、病気の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアカンファレンス、お見舞いなど、直接病院関係者と意見交換が出来る機会を設けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のケアについてはDr. 家族の意向を含めて入居者に最適なサービスが行えるように会議を開催している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、管理者、訪問看護ステーション、ご家族への連絡体制を取れるよう職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最寄の消防署より立会いで避難訓練を行っており今後も協力機関としてご理解いただけるよう依頼する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉かけの中で、気にかかった際にはお互いに注意をかけあい、改善していくようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来るようゆとりをもった声かけや、介助を実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に集中していることがあり、その日の勤務者で声をかけあっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から入居者の身だしなみには注意を払っている。(いつ来客が来てもおかしくないように)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューや、特別な美食祭りを通して、目で楽しめるように心がけている。入居者自身が準備や片付けをすることは難しくなってきたが、盛り付けや、テーブル拭きなど出来ることをご協力いただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科によるケアのほか、センターでは義歯の洗浄、うがいをして清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より排泄パターンを把握しオムツ使用をできるだけ減らしていくようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整や水分強化を個別に実施し、また、訪問看護とも排便状態について報告を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いたうえで入浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて静養対応など検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更になった際は必ず担当職員より連絡し申し送りを徹底するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽鑑賞や買い物(近隣のホームセンター)など個別に気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力により植木市や正月の帰省などで外出されることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常職員が金銭管理を行っているが、会計の際には入居者にお支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりができるよう声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の移動を自由に行っているため、落ち着かれない方がいた時は行き来して気分転換を図ってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの配席に注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由になじみのものを持ち込んでもらい生活のしやすい環境づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアを歩かれる方のため安全な環境づくり(車椅子などの障害物を置かない)に努めている。		